



5年生調理実習

先日16日(火)は家庭科室から5年生の声が聴こえてきました。家庭科室に行ってみると、ちょうど調理実習中でした。青菜のおひたしとゆでいもづくりに挑戦していました。子供たちにとっては、どのくらい茹でるとよいのか、茹で時間によって食感に違いは出るのか、など疑問に思うことがたくさんあります。普段何気なく調理されたものを食しているだけに、食材の特徴などについては、あまり深く考える機会はありません。実際に調理してみると、青菜は思っている以上に茹で時間は短く、あっという間に湯からあげないと「茹ですぎ」になってしまいます。たくさんの発見をしながら試食にこぎつけたようです。以下は、子供たちの感想です。「醤油ととても相性がよかったです。青菜は、大胆に曲げてお湯に入れていいことがわかりました。青菜は、色がはっきり鮮やかな色になっていました。切るときに包丁使いに慣れていたのでスパッと切れました。」



子供たちの家庭科は、ここで終わりではありません。調理の仕方について学び、家族に応じた調理の仕方について考えることができるようにして、実際に家庭でも学びを生かせる家庭科から家庭化を目指して欲しいと思います。

運動会全体練習

昨日18日(木)は、運動会全体練習がありました。開閉会式の補足説明や団ごとに分かれて応援合戦の練習を行いました。練習に先立ち、体育副委員長から「今日は応援団の練習もあるので、一致団結できるようにがんばりましょう!」と呼びかけがありました。応援団の練習はあいにくの雨模様でしたので、体育館でそれぞれの団ごとに練習を行いました。しかし、応援団の子供たちが大きな声で練習を引っ張ってくれたおかげで、全員が集中力を切らすことなく、有意義な時間とすることができました。練習の振り返りでは、体育副委員長が「『🟢帯西グリーン』の心が伸びました。理由は、今日のめあてのように、団が一致団結できたように思えたからです。」と述べてくれました。子供たちも運動会に向けて、意識が高まってきたようです。

ほっこりする話

昨日(木)、朝から交通指導をしていると、2年生の子供が、「いつもありがとうございます。」と一輪の花を私に渡してくれました。心がほっこりしていると、黄色い帽子を被った一年生の子供が、「今日もありがとうございます。」と軽く会釈をして私の前を通り過ぎていきました。「ありがとうございます」が自然に言えることは、心がほっこりするものだ、旗を振りながら自然と笑顔になりました。

